



馬 耳 東 風

「近頃の若い者は…」というのは年寄りの常套文句であり、これは昔から変わらぬことなのである。しかし世の移り変わりが激しくて、昔は年寄りの口癖であったこの言葉を最近では20代の若者が使っているということを見聞きして驚いた。つまりこの頃は5歳違うと考え方や感じ方がかなり異なるらしく、「近頃の高校生は…」という類のことを20代の若者が結構言っているのである。私のような高齢者から見るとその違いは全く分からないので目を白黒させるだけでなのであるが…。

近年は若い人たちの考え方や感じ方に限らず、世相というか世の中のすべてがわれわれの若い頃とはすっかり変わってしまったので、高齢者はそれを嘆くよりも、自分が世の動きから取り残されていると感じる孤独感や、あるいは取り残されているのではないか感じる不安感の方が大きいように思うのだが、いかがであろうか。

学生の頃、昼食後に廊下をアイスキャンデーを舐めながら歩くのを日課のようにしていた、米国留学から帰国したばかりの助教授がいた。われわれ学生はその先生の学識に敬意を払いつつも、「アメリカかぶれ」と陰口を叩いていた。当時は大学の廊下をアイスキャンデーを舐めながら歩くなどということは誰もしない行儀が悪いことだったのである。しかし今は誰でもする普通のことになっている。電車の中の飲み食いさえ、私が利用している郊外電車では当たり前のこととなっている。ある朝若い女性が自分で握ったと思われる大きなおにぎりを大口を開けて食べ始め、時々ペットボトルのお茶をゴクゴク飲んでいるのを見たときにはさすがに驚いたが、スナック菓子やパンなどを食べているのをみてもあまり違和感

を感じないほど一般的になってきている。

しかし電車の中で若い女性が化粧しているのを見るのはどうしてもなじめないでいる。そもそも私は女性の化粧というものが好きではない。まつげに墨を塗った女性の方が塗っていない女性よりも魅力的だろうか？ アイラインを引いた女性を美しいと感じるだろうか？ マニキュアだけならまだしも模様まで描いて（ネイルアートといってお金が掛かるらしい）それがどうしたの？ と言いたくなるのである。ましてや自分が化粧するところを逐一見も知らぬ他人に見せるという神経はどうなのだろうかと思っている。思っているがそれは自分が世の中から取り残されているからではないかと、時々反省？もするのであった。

ところが、過日NHKのEテレで関西弁のコミカルな歌が流れているのを聞いてわが意を得たりというか安心した。朝6時55分からはじまる「0655」という5分間の歌番組で、9月いっぱい流れていたもので、お聞きになった方もあるかもしれない。歌っているのは、中高年のおばちゃんに扮した男性二人。車内で脇目も振らず化粧をしている女性を眺めながらひたすら「やめなはれ やめなはれ」と、電車で化粧するのをやめるよう繰り返し促すのである。化粧は家か化粧室ですべきであると諭し、あと10分早起きすれば素敵なレディになれますよ、そして幸せになれますよ、と結んでいる。年寄りの繰り返しと半ば自分の方がおかしいのではないかと思っていたが、同じように感じている人がいるということを知ってうれしくなった。アトもう一つ、朝から電車で黙々とゲームをすることを揶揄する歌を作ってくれないかなあと願う気持ちや切である。

(久)